

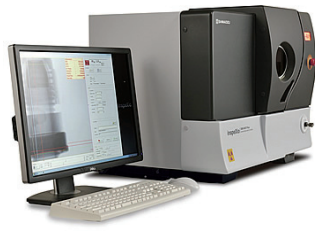
### 3Dプリンターに対応

#### 島津製作所 X線CT 卓上タイプ開発

島津製作所は十四日、コンパクトな卓上タイプで、樹脂製品、骨、歯、医薬品などのサンプルを素早く三次元観察できるマイクロフォーカスX線CTシステム「insp eXioSMX-90 CT Plus」(II写真)を発売した。

マイクロフォーカスX線CTシステムは、微小焦点のX線発生装置とX線検出器との間でサンプルを回転させ、観察したデータを元にサンプル内部の三次元構造を再構成する装置だ。

近年、3Dプリンターが普及しつつあり、三次元内部構造を持った樹脂部品を製作できるようにしたが、複雑な内部構造を持つため、その構造が正常かどうかを外部から観察し判断することが困難だった。また、骨粗しょう症などの病気に関する骨組織の観察や、骨補強材の構造解析にもCT画像が利用されており、今後とも生体素材向け



NTTドコモは八月四日より、医療・福祉向けにシステム開発を行うスルキルアップジャパンとの協力で、同一病院の他、異なる病院間で、CT画像などを共有し連絡を取り合えることを可能とするモバイルクラウドソリューション「JOIN」(ジョイン)の提供を開始する。

従来の医用画像共有システムは、専用サーバーを院内に設置し、システムを運用するための担当者を配置する必要があったが、今回、提供を開始する「JOIN」は、院外にあるクラウドサーバーを利用することで、これら負担を軽減することが可能となる。

本ソリューションは既に、全国十五病院で導入が予定されており、NTTドコモでは今後、医療分野に特化した「メディア

#### 病院間でCT画像共有

##### ドコモ他 医療用モバイルシステム

独自の高い操作性と、超まりつつある。これらを背景に、新発売のシステムでは、簡単にサンプル内部の三次元構造を観察できる基本設計に加え、

表現する。さらに、コンパクトサイズでありながら、開口部には、垂直方向と奥行き方向に、それぞれ二倍以上のスペースがあり、最大で直径百

カルCT推進室」を新設し、各医療機関や自治体への提案・販売の拡大を図っていくとしている。

#### 国直轄の除染計画が出そう

##### 双葉町で

環境省は十五日、双葉町の特別地域内除染実施計画を策定、公表した。これで、放射性物質汚染対策特措法に基づき、一二年四月より策定されてきた全十一町村にわたる国直轄除染地域の計画が出そろった。

双葉町の除染対象地域の人口は約三百人、対象面積は約二百ha。特別地域の除染は、一四年三月までに、田村市(四月に避難指示解除、川内村、楢葉町、大熊町で終了している。

#### 「どないする!? エネルギー」

##### 原子力文化財団 8月に大阪でセミナー

日本原子力文化財団は八月八日、大阪科学技術センター(大阪)で、地域セミナー「どないする!? エネルギー」を開催する。この現場から、開



福島産「あかつき」もうすぐ旬  
福島県は果物王国として有名だ。中でも、桃の生産量は全国の約20%を占めており、特に、代表的な品種とされる「あかつき」は、果肉が多汁で、極上の味だ。

#### 「福島事故と原子力のリスク」で新刊

##### システム懇話会

研究・技術者OBらで構成する原子力研究システム懇話会はこのほど、「NSAコメントシリーズ」『福島第一原子力発電所事故と原子力のリスク』を刊行した。

本書は、題名のごとく、福島第一原子力発電所事故の状況と課題について、既出の報告書も踏まえながら述べているが、冒頭、元原子力安全委員長の故内田秀雄氏の回想録などに基き、日本と米国の軽水炉の開発と安全確保の歴史を振り返り、今後のリスク評価と安全目標の議論へとつなげている。

#### 出展企業募集中!

本展示会ではジャパン・パビリオンが設置されます。ご出展企業様にはプロモーションやビジネス・マッチング等各種特典がございます。

#### 原子力エネルギー産業を代表するグローバル・イベント

2014年10月14日~16日  
パリ・ブルジュ - フランス

- 原子力産業を包括する初のB to Bイベント
- 欧州、米、露、アジア、中東などから400以上の企業・団体が出展
- 政府機関や原発事業者の意思決定者、約7,000名が世界中から来場
- 業界キーパーソンによる討論会、技術、ビジネスをテーマとしたセミナー等広範なプログラムが展開
- 商談とネットワーク構築に絶好の場



お問い合わせ先  
Reed ISG Japan株式会社  
TEL: +81-(0)3-6261-2996 - E-mail: itaik@reedexpo.co.jp

#### 「原発ゼロ」高年齢 ほど関心高い傾向

##### 楽天リサーチ

楽天リサーチは十八日、今日九日から十一日の三日間に二十代から六十代の男女千人を対象にしたインターネット調査を行った結果を発表し、夏の節電に関して「原発ゼロの今夏、約六割が電力不足の恐れがあることを認識。年代が高くなるにつれ、関心が高くなる」などの傾向にあったことがわかった。

原子力発電が今夏ゼロになることは、六十代の七〇%が「知っている」

#### 電力と需要抑制 サービス開始

##### イオンデパート

イオンデパートは、独自のエネルギーマネジメントシステム「Ad-EMS」により、各施設

七〜九月を対象とした需要抑制に関するサービスを開始したと発表した。夏季の電力ひっ迫時、電力会社から需要抑制依頼があった際、各社管内の高圧契約の需要家を対象として、指定時間帯に需要状況を監視し、需要抑制の負荷調整を実施するもの。需要抑制の実績に従って需要家に協力金が支払われることから、節電へのインセンティブにつながる。

イオンデパートは、愛称を募集している。同棟には、一二年の原子力発電所事故からの歩

#### 環境創造センターで愛称募集

##### 福島県

二〇一六年度に福島県三春町に開館する「福島県環境創造センター」交流棟では、親しみやすい

「福島モニタリングスクエア」や、放射線について「知る」「測る」「身をまもる」の四つのテーマを通して学べる「放射線ラボ」等がある。最優秀賞には商品券または図書カード五万円が贈られる。小学生以上ならだれでも応募可能

#### 「どないする!? エネルギー」

##### 原子力文化財団

日本原子力文化財団は八月八日、大阪科学技術センター(大阪)で、地域セミナー「どないする!? エネルギー」を開催する。この現場から、開

#### 「福島事故と原子力のリスク」で新刊

##### システム懇話会

研究・技術者OBらで構成する原子力研究システム懇話会はこのほど、「NSAコメントシリーズ」『福島第一原子力発電所事故と原子力のリスク』を刊行した。

本書は、題名のごとく、福島第一原子力発電所事故の状況と課題について、既出の報告書も踏まえながら述べているが、冒頭、元原子力安全委員長の故内田秀雄氏の回想録などに基き、日本と米国の軽水炉の開発と安全確保の歴史を振り返り、今後のリスク評価と安全目標の議論へとつなげている。